

TEC-FORCE前進基地の役割と今後の課題

～「平成30年7月豪雨」の経験から～

片山 直行¹・原田 大一郎²

¹中国地方整備局 岡山国道事務所 総務課 (〒700-8539 岡山県岡山市北区富町2丁目19-12)

²中国地方整備局 岡山国道事務所 経理課 (〒700-8539 岡山県岡山市北区富町2丁目19-12)

近年、大規模な地震災害が頻発する中、災害後の早期の復旧・復興支援のため、TEC-FORCEの活動の重要性が増している。中国地方整備局においては将来予測される南海トラフ巨大地震等の発生に備え、岡山国道事務所内にTEC-FORCE前進基地の設置を進めてきた。「平成30年7月豪雨」時に前進基地として全国からの隊員を迎えることとなったが、この時の経験から課題・反省点などを振り返り、今後に活かすべく検討を行った。

キーワード TEC-FORCE, 前進基地

1. はじめに

岡山国道事務所（以下「当事務所」という）では、「緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）設置細目」第6条の規定に基づき、TEC-FORCE前進基地（以下「前進基地」という）を設置している。

本稿において、基地の整備に係る経緯及び概要、また、整備後初めて活用した「平成30年7月豪雨」時の状況から通して判明した課題及び今後について述べる。

2. 前進基地設置の経緯

大規模自然災害への備えとして、また被災状況の把握や拡大防止、災害応急対策に対する技術的な支援を行い、被災地の早期復旧を行うために2008年4月にTEC-FORCEが設立された。

中国地方整備局では2013年7月の島根・山口豪雨から2020年7月の豪雨まで管内、管外を問わず活動を行ってきた。

これら近年の大規模、突発化する自然災害に備えて、より早期に災害への対応を図るため前進基地の必要性が生じた。前進基地の役割としては、管外へTEC-FORCEを派遣する時は当事務所においてTEC用物品の準備を行うこと、近隣での災害に対してはTEC-FORCE隊員を受け入れることができる体制を取ること、及び派遣されたTEC-FORCE職員の支援活動や生活面での様々な負担軽減を図ることにある。

東日本大震災以降、南海トラフ巨大地震に備え、2013年から前進基地整備計画の検討を開始し、2015年度からは企画部防災課（当時）との調整を行い、年度末には当事務所に前進基地を常設することが正式に決まった。そして、前進基地を整備するにあたって、熊本地震時の

TEC-FORCE派遣メンバーなどTEC-FORCE派遣経験者等へのヒアリングを行うなどして、岡山に集結するTEC-FORCEが災害発生直後から円滑・迅速に活動を開始できるよう前進基地が備えるべき物品・資料等について検討し、とりまとめた。

当事務所3階にあった会議室及び打合せスペースを改装し、活動時にはTEC-FORCE隊員の受け入れ、活動ができるよう前進基地を整備した。

3. 前進基地の概要

前進基地は、前記のとおり、当事務所3階にあった会議室及び打合せ用のオープンスペースを改装してTEC-FORCE専用部屋（以下、TEC部屋という）として整備するとともに、前進基地が備えるべき物品・資料等を準備した。

(1) TEC部屋

TEC部屋は、3階北側のフロアに位置し、廊下から自由に出入りができるオープンスペースと、通常は会議室として使用するスペースの2箇所を整備した。そして、部屋には机、椅子、プリンタ機能付きコピー機を備え、インターネット等を活用できるようLANケーブルを配線した。これにより、受け入れ人数に応じた迅速な前進基地のレイアウトが行えるようにした。（図-1、図-2）

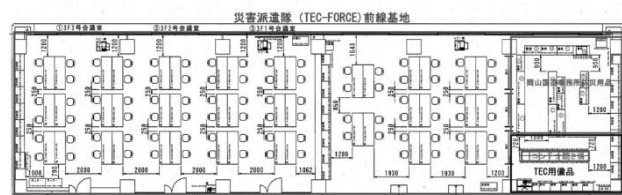


図-1 TEC-FORCE専用部屋（TEC部屋）レイアウト



図-2 TEC-FORCE専用部屋（TEC部屋） 座席設置状況

(2) 物品・資料等

TEC-FORCEが必要とする物品は、「自己完結型を前提として必要品を携行する。」（緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）活動マニュアル【第3版】5-8（6）より）とされていることから、TEC-FORCE活動に必要な物品は、物品リストとして取りまとめ、TEC用物品庫に一覧表を掲示している。

小さな備品、消耗品類はコンテナの中に入れ1セットとして取りまとめ、出動要請に応じて早急に対応できるようにしている。（図-3）

物品の必要な数量や優先度の検討にあたっては、医療品・非常食等、耐用年数が決まっているものについては最少必要数量とし、テレビモニターや飲料水等については発災後にも購入可能であると判断し、購入コストを最小限におさえることとした。

また、必要性は高いと思われるものの、購入コストの大きい地形図（2万5千分の1、国土地理院発行）については、岡山TEC前進基地からの活動範囲を想定して、鳥取・岡山および四国4県分を各1枚ずつ購入することとした。

そして、これらの物品・資料は、必要の際すぐに持ち出せるようTEC-FORCE専用の物品とし、確実に管理を行うためTEC部屋の横に物品庫を設けて保管している。



図-3 備品・消耗品類1セットコンテナ

4. 「平成30年7月豪雨」時の状況

前記により整備した前進基地は、西日本を中心に大きな被害をもたらした「平成30年7月豪雨」時に初めて運用することとなった。

(1) 「平成30年7月豪雨」の概要

「平成30年7月豪雨」は、2018年7月5日から7日にかけて本州に停滞した梅雨前線の活発な活動により発生した。岡山県では48時間累加雨量にして、新見市新見地点で295mm、倉敷市倉敷地点で260mmになるなど、各地で観測史上1位となる降雨量を記録した。

この豪雨により、当事務所管内では国道2号で事前通行規制を実施したほか、国道53号及び国道180号では被災により通行止めが発生した。特に国道180号総社市災粟から種井にかけて隣接する高梁川の増水により、道路冠水、道路付属物損壊、護岸流出などの被害が発生した。

また、岡山河川事務所が管理する高梁川水系小田川をはじめ各地で堤防決壊が発生するなどにより、岡山県内で死者61人、行方不明者3人、負傷者161人となる甚大な被害が生じた。

(2) TEC-FORCEの活動状況

被災直後の8日から、当地整職員のほか、東北、関東、北陸などの各地整からTEC-FORCE隊員が派遣され、一時は100名以上の隊員が当事務所に在庁することとなった。（図-4）

そして、各隊員は、倉敷市真備町の小田川等の堤防決壊に伴う浸水被害に対する排水ポンプ車による緊急排水、散水車による道路啓開などの応急対策を実施し、また、現地調査などにより被災自治体の被災状況調査を行うなど様々な活動を行った。



図-4 各地整からのTEC-FORCE隊員

(3)前進基地としての運用

前記の通り当事務所管内でも甚大な被害が発生したことから、当事務所を前進基地として多くの隊員が活動することとなった。

このため、総務課では、TEC-FORCE指令班の指示のもと、状況に応じた部屋のレイアウト変更、プリンタ機能付きコピー機のコピーカードの準備、LANケーブル、電源ケーブルなどの配線、パソコンの印刷設定のほか、各TEC-FORCEログ担当にごみ廃棄や庁舎の施錠・解錠などの説明を行うなどの生活面の支援を行った。

また、TEC-FORCE用物品庫を管理する経理課では、事前に準備し保管していた物品・資料等の貸出や不足物品の購入を行った。

(4)今回の豪雨時の状況

当事務所及びその周辺では大きな被災はなかったものの、岡山県下全域で大きく被災しており、周辺道路網が寸断されたことも相まって、スーパーやホームセンター等で食料品類やブルーシートなどの資材について、一時品薄の状態が続いた。

また、7月という季節柄もあり、今回の災害対応は連日の猛暑の中で行うことを余儀なくされた。

加えて当事務所も被災事務所であったため、通行規制など事務所全体で対応を行う必要があり、当然総務課・経理課の職員も現地で災害対応を行ったことから、前進基地の対応において人手が不足することとなった。

以下にこれらの直面した状況についての対応と見えた課題を整理する。

5. 「平成30年7月豪雨」時の課題

前進基地としての運用に際して直面した課題について、主として「物資（施設・設備）の不足」と「人員の不足」が挙げられる。

(1) 物資（施設・設備含む）の不足

連日の猛暑という気象状況や堤防決壊に伴う浸水被害という被災状況により、前進基地として予め準備していたもの以外にも物資が必要となった。

2018年7月の気象状況は記録的猛暑でもあり、TEC-FORCE隊員の熱中症対策が必須かつ重要となり、水分補給のための飲料水、スポーツドリンク類や塩分補給タブレット冷却ジェルシートが急遽必要となった。

また、特に堤防決壊が発生した倉敷市真備町に派遣された隊員は、粉塵に悩まされることになり、防塵マスク・ゴーグル・手洗い水などが必要となった。

いずれも、急遽調達したり当事務所にあった物品を代用することで対応したが、前述の通り、当時は品薄で入手困難な状態が続いており、調達に四苦八苦することにな

った。

また、施設・設備面から、TEC-FORCE隊員用の冷蔵庫の不足、猛暑の中の過酷な任務の中で一時的に体を休める場所がなかったことがあった。

これらについては、当事務所において2018年度中に冷蔵庫2台を調達したこと、事務所医務室の畳スペースを休憩スペースとして整備を行っている。（図-5、図-6）



図-5 TEC-FORCE隊員用冷蔵庫



図-6 休憩スペース

(2) 人員の不足

当事務所管内の直轄国道も被災したため、その対応とTEC-FORCE前進基地対応を同時並行で行うこととなった結果、TEC-FORCE隊員のレンタカーや高速道路の災害派遣等従事車両証明書（通行料免除）の手配の依頼への対応、不足する物資の調達手続きなど事務量が膨大となり、当事務所の人手が足りない状況が続いた。

6. 今後に向けて

5.に挙げた課題を踏まえ、今後どのように前進基地を運用していくべきか、考察する。

(1) 物資（施設・設備含む）の不足に対して

今回の豪雨対応において不足した物資は急遽調達することで対応したが、今後発生が予測される南海トラフ巨大地震など、より広範囲の地域が被災しうる災害が発生した場合、調達そのものができる事態がありうる。

よって、今回の豪雨のように実際の災害の経験を踏まえ、資機材や物資を再選定し、予め調達しておくべきであると考える。また、TEC-FORCEは自己完結型とはいえ、中国地整・他地整関係なく活動隊員に配布できる数量の確保も必要である。

(2) 人員の不足に対して

災害対応時に生じる事務手続きについて、事前準備・調整や役割分担を行うことで対応すべきと考える。

具体的には、ETCカードやレンタカーカード、ガソリンカードについて事前に十分な枚数を予め準備すること、災害派遣等従事車両証明書について全国の高速道路会社と事前に調整すること、TEC-FORCEが持ち出してもよい携帯電話を整備しておくことが考えられる。

これらを整えた上で、各地整TEC-FORCEロジ担当、前進基地となる事務所の担当との役割分担を明確にすれば、対応がスムーズになるものと考える。

頻発する災害への対応の度に、ノウハウを蓄積し、前進基地の機能を充実させていきたいと考える。

参考文献

1) 国土交通省水管理・国土保全局HP「TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）」

<https://www.mlit.go.jp/river/bousai/pch-tec/index.html>

2) 中国地方整備局HP「TEC-FORCE」

http://www.cgr.mlit.go.jp/cginfo/syokai/busyo/kikaku/tec_force/index.htm

3) 中国地方整備局：「平成30年7月豪雨～中国地方整備局 災害対応の記録」